

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名 (単元名)	精神看護学概論(精神保健、 援助的な人間関係の構築)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち16時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	中島由美子(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護26年)		
<p><科目目標></p> <p>こころのしくみ及び関連用語を理解し、こころの健康保持・増進のための予防医学や精神保健活動を理解する。ライフサイクルにおける発達課題とこころの健康について理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 精神障害のとらえ方 3) ストレスと健康の危機 (1) レジリエンス (2) ストレングスモデル 4) 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 5) 回復を支える力	講義	
2	2. こころのしくみ 1) 自己概念 (1) ミード自己論 (2) エリクソン漸成的発達理論 (3) ロジャースの自己理論 (4) ボディイメージ i. ブラウン 同心円モデル ii. プライス トライアングルモデル 2) 自己尊重 (1) マズローの人間欲求の段階説 (2) ローゼンバーグの自己尊重	講義	
3	3. コミュニティにおける精神保健・精神看護 1) 学校における精神保健と精神看護 (1) 学校という場とメンタルヘルス (2) 学校で精神保健・看護を担う専門職 (3) 学校におけるメンタルヘルスの問題と社会的取り組み (4) 学校における精神保健への取り組みの実際 2) 職場における精神保健と精神看護 (1) 労働者の心の健康(メンタルヘルス)の現状 (2) メンタルヘルス対策と職場復帰支援制度 (3) 職場でのメンタルヘルス支援の実際 3) 災害と精神看護 (1) 災害がおそったとき (2) 災害時の心理的回復プロセス (3) 災害時の心のケアのさまざまなアプローチ (4) 支援者に対するメンタルヘルス対策 (5) 現場での重要な視点	講義	

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名 (単元名)	精神看護学概論(精神保健、 援助的な人間関係の構築)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち16時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	中島由美子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護26年)		
回	内 容	授業方法	
4	4.リエゾン精神看護 1)身体疾患をもつ患者の精神保健 (1)慢性疾患と精神疾患 (2)アルコール関連問題 (3)死にゆく人々の心理プロセス 2)リエゾン精神看護とその活動 3)リエゾンナースの活動の実際 4)看護師の精神的健康への支援	講義	
5	5.ケアの人間関係 1)相手を知ること、自分を知ること 2)ケアの原則 3)ケアの方法 4)関係をアセスメントする 5)患者-看護師関係における感情体験 6)医療の場のダイナミクス	講義	
6～7	6.援助関係の構築 1)プロセスレコードの活用 2)患者-看護師関係 (1)ウィーデンバック 援助ニード (2)ペプロウ 対人的プロセス (3)カール・ロジャーズ 現象的場と自己概念 (4)オーランド 看護師の思考や感情	講義 演習(プロセスレコードの検討)	
8	7.看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1)看護師の不安と防衛 2)感情労働としての看護 3)看護師の感情ワーク 4)看護における共感の光と影 5)感情労働の代償と社会 6)レジリエンスを高める	講義	
授業の進め方 講義などを通して、人間のライフサイクルにおける発達課題とそれに伴う危機的状況を理解し、 こころの健康保持のための予防医学、健康保持・増進のための保健活動を知ること、家族のライフ サイクルとこころの健康保持・増進活動を理解する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院) 3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研)			
評価方法 筆記試験、授業参加			

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名 (単元名)	精神看護学概論 (人間の自我の構造、精神障害の 治療と歴史)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち10時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	児玉 健介 (別府医療センター・精神科医長) 二宮 大雅 (別府医療センター・精神科医師)		

<科目目標>

こころのしくみ及び関連用語を理解し、こころの健康保持・増進のための予防医学や精神保健活動を理解する。ライフサイクルにおける発達課題とこころの健康について理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 人間のこころの諸活動 1) 意識と認知機能 (1) 意識 (2) 認知 i. 注意 ii. 知覚 iii. 記憶 iv. 思考 2) 感情 (1) 感情と身体 (2) 感情と言葉 (3) 感情と社会 3) 学習と行動 (1) 古典的条件付け (2) オペラント学習 (3) 動機づけ (4) 自己効力感 4) 知能 (1) 知能の定義 (2) 知能指数 (3) 知的能力の障害による生活上の問題 5) こころの理論 (1) 人の心を読む能力 (2) 自閉症スペクトラムという生きにくさ	講義
2～3	2. 人格の発達 1) 人格と気質 (1) 人格 (2) 気質 2) 無意識と精神分析 (1) 自我の構造 i. イド ii. 自我 iii. 超自我 (2) 不安と防衛 i. 退行 ii. 抑圧 iii. 否認 iv. 転換・おきかえ v. 同一化 vi. 反動形成 vii. 分離・解離 viii. 取り消し ix. 知性化 x. 合理化 xi. 昇華 3) 対象関係論 4) ボウルビーの愛着理論 5) コフートの自己心理学	講義

領 域	専門分野Ⅱ (精神看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名 (单元名)	精神看護学概論 (人間の自我の構造、精神障害の 治療と歴史)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち10時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	児玉 健介 (別府医療センター・精神科医長) 二宮 大雅 (別府医療センター・精神科医師)		
回	内 容	授業方法	
4～5	<p>3. 社会の中の精神障害</p> <p>1) 精神障害と治療の歴史</p> <p>(1) 精神障害と宗教療法</p> <p>(2) 岩倉保養所とゲールコロニー</p> <p>(3) ギリシャ時代の精神医学</p> <p>(4) アラビア医学と中世以降の魔女裁判</p> <p>(5) 近代精神医学の夜明け</p> <p>(6) モラル療法と精神病患者の人権擁護運動</p> <p>(7) モラル療法から近代精神医学へ</p> <p>(8) クレペリン、プロイラー、そして統合失調症</p> <p>(9) ショック療法と積極的身体療法</p> <p>(10) 病院精神医学から地域・社会精神医学へ</p> <p>2) 日本における精神医学・精神医療の流れ</p> <p>(1) 第二次世界大戦までの精神障害者の処遇</p> <p>(2) 病院改革と精神科看護</p> <p>(3) 戦後日本の精神保健福祉</p> <p>(4) 人権擁護に関する動き</p> <p>(5) 2000年以降の長期入院患者の地域移行の動き</p> <p>(6) 精神保健医療福祉のこれまでの流れ</p> <p>3) 精神障害と文化</p> <p>4) 精神障害と社会学</p> <p>(1) 逸脱とスティグマ</p> <p>(2) 精神病院の社会学的研究</p> <p>(3) ソーシャルインクルージョン</p>	講義	
<p>授業の進め方</p> <p>講義を通して、現代の精神医療の動向と治療の対象となっている個人および家族について教授する。人間のこころの機能、不安と防衛などは、学生の生活体験を挙げて、イメージ化できるように教授する。精神医療の歴史を知ること、精神障害を有する対象への偏見について説明する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	1年後期									
科 目 名 (単元名)	精神看護学概論 (精神障害と法制度)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間									
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	中島由美子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護26年)											
<p><科目目標></p> <p>こころのしくみ及び関連用語を理解し、こころの健康保持・増進のための予防医学や精神保健活動を理解する。ライフサイクルにおける発達課題とこころの健康について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 精神障害と法制度 1) 精神科看護と法律 2) 精神科領域に必要な法律と制度 (1) 権利擁護に関する法律と制度 (2) 医療を受けるための法律と制度 (3) 生活を支えるための法律と制度 (4) 情報のための法律と制度 (5) 個別の課題に対応した法律 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 2. 地域における精神保健と精神看護 1) 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2) 地域で生活するための原則 3) 生活を支えるための社会資源・サービス (1) 相談支援 (2) 医療に関わるサービス (3) 生活を支えるサービス i. 日中の活動の支援 ii. 住まいの場 iii. その他のサービス (4) 一般就労に向けての支援 (5) 当事者のエンパワメントのためのサービス </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 精神障害と法制度 1) 精神科看護と法律 2) 精神科領域に必要な法律と制度 (1) 権利擁護に関する法律と制度 (2) 医療を受けるための法律と制度 (3) 生活を支えるための法律と制度 (4) 情報のための法律と制度 (5) 個別の課題に対応した法律	講義	2	2. 地域における精神保健と精神看護 1) 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2) 地域で生活するための原則 3) 生活を支えるための社会資源・サービス (1) 相談支援 (2) 医療に関わるサービス (3) 生活を支えるサービス i. 日中の活動の支援 ii. 住まいの場 iii. その他のサービス (4) 一般就労に向けての支援 (5) 当事者のエンパワメントのためのサービス	講義
回	授業内容	授業方法										
1	1. 精神障害と法制度 1) 精神科看護と法律 2) 精神科領域に必要な法律と制度 (1) 権利擁護に関する法律と制度 (2) 医療を受けるための法律と制度 (3) 生活を支えるための法律と制度 (4) 情報のための法律と制度 (5) 個別の課題に対応した法律	講義										
2	2. 地域における精神保健と精神看護 1) 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2) 地域で生活するための原則 3) 生活を支えるための社会資源・サービス (1) 相談支援 (2) 医療に関わるサービス (3) 生活を支えるサービス i. 日中の活動の支援 ii. 住まいの場 iii. その他のサービス (4) 一般就労に向けての支援 (5) 当事者のエンパワメントのためのサービス	講義										
<p>授業の進め方</p> <p>精神保健福祉法と障害者総合支援法を中心に教授する。地域で生活するための社会支援システムと専門職者やボランティア活動との協働について、教授する。</p>												
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院)</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)</p>												
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>												

領 域	専門分野Ⅱ (精神看護学)	開講時期	2 年前期																								
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅰ (精神症状と治療)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 24 時間																								
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	児玉 健介 (別府医療センター・精神科医長) 二宮 大雅 (別府医療センター・精神科医師) 牧野 麻友 (別府医療センター・精神科医師) 衛藤 真樹 (別府医療センター・精神科医師)																										
<p><科目目標> 対象に起こっている症状や行動から、必要な一時的または継続的な治療及び支援における基礎的な知識および対応について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2</td> <td> 1. 精神障害の理解 1) 精神症状論と状態像 2) さまざま精神症状 (1) 思考の障害 (2) 感情の障害 (3) 意欲の障害 (4) 知覚の障害 (5) 意識の障害 (6) 記憶の障害 (7) 局在症状 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> 3) 診断と疾病分類 (1) 診断と疾病分類 (2) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状と治療 (3) 気分<感情>障害 : 双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群の症状と治療 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> (4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 : 恐怖性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、身体表現性障害、その他神経性障害の症状と治療 (5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 : 摂食障害、睡眠障害、性同一性障害の症状と治療 (6) パーソナリティ障害の症状と治療 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> (7) 器質性精神障害: 認知症、症状精神病の症状と治療 (8) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 : アルコール依存、薬物依存の症状と治療 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td> (9) 神経発達障害群の症状と治療 (10) 秩序破壊的・衝動制御・素行障害群の症状と治療 (11) 心身症の症状と治療 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td> 4) 臨床検査 (1) 脳波検査 (2) 知能検査 (3) 記銘力検査 (4) 人格検査 (5) 脳の画像検査 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8～10</td> <td> 5) 精神科での治療 (1) 身体療法 (薬物療法) i. 抗精神病薬 ii. 抗うつ薬 a. 三環系抗うつ薬 b. 四環系抗うつ薬 c. SSRI d. SNRI </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1～2	1. 精神障害の理解 1) 精神症状論と状態像 2) さまざま精神症状 (1) 思考の障害 (2) 感情の障害 (3) 意欲の障害 (4) 知覚の障害 (5) 意識の障害 (6) 記憶の障害 (7) 局在症状	講義	3	3) 診断と疾病分類 (1) 診断と疾病分類 (2) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状と治療 (3) 気分<感情>障害 : 双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群の症状と治療	講義	4	(4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 : 恐怖性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、身体表現性障害、その他神経性障害の症状と治療 (5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 : 摂食障害、睡眠障害、性同一性障害の症状と治療 (6) パーソナリティ障害の症状と治療	講義	5	(7) 器質性精神障害: 認知症、症状精神病の症状と治療 (8) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 : アルコール依存、薬物依存の症状と治療	講義	6	(9) 神経発達障害群の症状と治療 (10) 秩序破壊的・衝動制御・素行障害群の症状と治療 (11) 心身症の症状と治療	講義	7	4) 臨床検査 (1) 脳波検査 (2) 知能検査 (3) 記銘力検査 (4) 人格検査 (5) 脳の画像検査	講義	8～10	5) 精神科での治療 (1) 身体療法 (薬物療法) i. 抗精神病薬 ii. 抗うつ薬 a. 三環系抗うつ薬 b. 四環系抗うつ薬 c. SSRI d. SNRI	講義
回	授業内容	授業方法																									
1～2	1. 精神障害の理解 1) 精神症状論と状態像 2) さまざま精神症状 (1) 思考の障害 (2) 感情の障害 (3) 意欲の障害 (4) 知覚の障害 (5) 意識の障害 (6) 記憶の障害 (7) 局在症状	講義																									
3	3) 診断と疾病分類 (1) 診断と疾病分類 (2) 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害の症状と治療 (3) 気分<感情>障害 : 双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群の症状と治療	講義																									
4	(4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 : 恐怖性不安障害、強迫性障害、重度ストレス反応および適応障害、解離性障害、身体表現性障害、その他神経性障害の症状と治療 (5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 : 摂食障害、睡眠障害、性同一性障害の症状と治療 (6) パーソナリティ障害の症状と治療	講義																									
5	(7) 器質性精神障害: 認知症、症状精神病の症状と治療 (8) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 : アルコール依存、薬物依存の症状と治療	講義																									
6	(9) 神経発達障害群の症状と治療 (10) 秩序破壊的・衝動制御・素行障害群の症状と治療 (11) 心身症の症状と治療	講義																									
7	4) 臨床検査 (1) 脳波検査 (2) 知能検査 (3) 記銘力検査 (4) 人格検査 (5) 脳の画像検査	講義																									
8～10	5) 精神科での治療 (1) 身体療法 (薬物療法) i. 抗精神病薬 ii. 抗うつ薬 a. 三環系抗うつ薬 b. 四環系抗うつ薬 c. SSRI d. SNRI	講義																									

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅰ (精神症状と治療)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 24 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	児玉 健介 (別府医療センター・精神科医長) 二宮 大雅 (別府医療センター・精神科医師) 牧野 麻友 (別府医療センター・精神科医師) 衛藤 真樹 (別府医療センター・精神科医師)		
回	授業内容	授業方法	
8～10	iii. 抗躁薬 iv. 抗不安薬 v. 睡眠薬 vi. 抗てんかん薬 vii. 抗パーキンソン薬 (2) 電気けいれん療法 (3) 精神療法 i. 支持療法 クライアント中心療法 ii. 表現療法 芸術療法 iii. 洞察療法 精神分析、交流分析、フォーカシング 森田療法、内観療法 (4) 行動療法およびリラクゼーション i. 行動療法 ii. 認知療法 認知行動療法 iii. 社会生活技能訓練 iv. 自律訓練法 v. バイオフィードバック	講義	
11	6) 精神科の治療と身体のケア (1) 抗精神病薬の有害反応 ①パーキンソニズム ②アカシジア ③ジストニア ④遅発性ジスキネジア ⑤悪性症候群 ⑥肺動脈血栓塞栓症 ⑦麻痺性イレウス ⑧水中毒 ⑨横紋筋融解症 ⑩リチウム中毒 ⑪高プロラクチン血症 ⑫メタボリックシンドローム 糖尿病 非定型抗精神病薬との関連 ⑬肺炎 窒息 サブスタンスP との関連	講義	
授業の進め方 精神看護の対象となる主な疾患・障害の特徴について、症状/検査/治療と体系的に学ぶことができるようにする。精神疾患・障害の主な治療である薬物療法の有害反応や影響について薬物療法と関連させて学ぶことができるようにする。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ (精神看護学)	開講時期	2年前期												
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅰ (日常生活への影響と看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)うち 6 時間												
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	吉田 紗奈江 (別府医療センター・看護師 8 年)														
<p><科目目標></p> <p>対象に起こっている症状や行動から、必要な一時的または継続的な治療及び支援における基礎的な知識および対応について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 精神科における身体のケア 2. 身体にあらわれる心の痛み 3. 精神科の治療と身体ケア 1) 精神療法としての身体ケア 2) 抗精神病薬の有害反応への看護 3) 電気けいれん療法の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4. 精神障害者に起こりやすい身体合併症の看護 1) メタボリックシンドロームの看護 2) 糖尿病の看護 3) やせ (るい瘦) の看護 4) 肺炎の看護の看護 5) 窒息の看護 6) 骨折の看護 7) 齲歯の看護 8) 起立性低血圧の看護 9) 肺動脈血栓塞栓症の看護 10) 悪性新生物の看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5. 精神科における身体のケアの実際 1) フィジカルアセスメント 2) 回復段階に応じた身体のケア 3) 日常生活における身体ケア 4) 睡眠の援助</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 精神科における身体のケア 2. 身体にあらわれる心の痛み 3. 精神科の治療と身体ケア 1) 精神療法としての身体ケア 2) 抗精神病薬の有害反応への看護 3) 電気けいれん療法の看護	講義	2	4. 精神障害者に起こりやすい身体合併症の看護 1) メタボリックシンドロームの看護 2) 糖尿病の看護 3) やせ (るい瘦) の看護 4) 肺炎の看護の看護 5) 窒息の看護 6) 骨折の看護 7) 齲歯の看護 8) 起立性低血圧の看護 9) 肺動脈血栓塞栓症の看護 10) 悪性新生物の看護	講義	3	5. 精神科における身体のケアの実際 1) フィジカルアセスメント 2) 回復段階に応じた身体のケア 3) 日常生活における身体ケア 4) 睡眠の援助	講義
回	授業内容	授業方法													
1	1. 精神科における身体のケア 2. 身体にあらわれる心の痛み 3. 精神科の治療と身体ケア 1) 精神療法としての身体ケア 2) 抗精神病薬の有害反応への看護 3) 電気けいれん療法の看護	講義													
2	4. 精神障害者に起こりやすい身体合併症の看護 1) メタボリックシンドロームの看護 2) 糖尿病の看護 3) やせ (るい瘦) の看護 4) 肺炎の看護の看護 5) 窒息の看護 6) 骨折の看護 7) 齲歯の看護 8) 起立性低血圧の看護 9) 肺動脈血栓塞栓症の看護 10) 悪性新生物の看護	講義													
3	5. 精神科における身体のケアの実際 1) フィジカルアセスメント 2) 回復段階に応じた身体のケア 3) 日常生活における身体ケア 4) 睡眠の援助	講義													
<p>授業の進め方</p> <p>講義を通して、精神看護におけるリスクマネジメントについて、治療(薬理作用、副作用)、症状による影響から考え、アセスメントに必要な知識を習得する。</p>															
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院)</p>															
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>															

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅱ (入院治療と看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	今山 秀雄 (別府医療センター・看護師・8年)		
<p><科目目標></p> <p>精神障害を持つ対象の症状や行動から、必要な治療や看護を理解する。そして対象に起こっている症状や行動から、一時的または継続的な看護に必要な技術と態度を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 入院治療の目的と意味 1) 患者にとっての入院体験 2) 入院するとき 3) 入院の目的 4) 入院時のアセスメント 2. 治療的環境をつくる 1) 治療と環境 2) 日本の精神科病院と病棟の特徴 3) 治療的環境の要件 4) 治療的雰囲気をつくる 5) いま、見直されている治療共同体 6) 治療的環境と看護師	講義	
2	3. 回復の意味 1) 回復とはどういうことか 2) 精神科におけるリハビリテーションとは 3) 回復のビジョン 4) 回復を支えるさまざまなプログラム 5) 誰にも回復の可能性がある 4. 退院調整 1) 患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進	講義	
3	5. リスクマネジメントの考え方と方法 1) 安全の要件 2) リスクマネジメントと行動制限 6. 緊急事態に対処する 1) 自殺 2) 暴力 3) 無断離院 4) 緊急事態とスタッフのサポート	講義	

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	2年前期～後期						
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅱ (入院治療と看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間						
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	今山 秀雄 (別府医療センター・看護師・8年)								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td> 7. 家族への支援 1) 家族の多様性 2) 家族と精神の健康 3) 家族内のコミュニケーションのゆがみ 4) 家族のなかの役割関係 5) システムとしての家族 6) 家族療法の考え方と技法 7) 家族のストレスと感情表出 8) 治療的關係と家族 </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	4	7. 家族への支援 1) 家族の多様性 2) 家族と精神の健康 3) 家族内のコミュニケーションのゆがみ 4) 家族のなかの役割関係 5) システムとしての家族 6) 家族療法の考え方と技法 7) 家族のストレスと感情表出 8) 治療的關係と家族	講義
回	授業内容	授業方法							
4	7. 家族への支援 1) 家族の多様性 2) 家族と精神の健康 3) 家族内のコミュニケーションのゆがみ 4) 家族のなかの役割関係 5) システムとしての家族 6) 家族療法の考え方と技法 7) 家族のストレスと感情表出 8) 治療的關係と家族	講義							
授業の進め方 精神看護学概論で学習した精神保健福祉法や精神保健福祉医療における社会資源の知識を活用し授業を行う。また、セーフティマネジメントと看護では、精神看護学概論で学習した看護師の感情労働、災害時の心的外傷への対応と関連させ授業を行う。									
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院) 2. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図(中央法規)									
評価方法 筆記試験									

領 域	専門分野Ⅱ(精神看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅱ (精神疾患・症状への看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち22時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	中島由美子(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師26年) 石井 俊介(別府医療センター・副看護師長・12年)		
<p><科目目標></p> <p>精神障害を持つ対象の症状や行動から、必要な治療や看護を理解する。そして対象に起こっている症状や行動から、一時的または継続的な看護に必要な技術と態度を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1.不眠の対象の看護 (講師:石井 俊介) (1)不眠の要因 (2)不眠が日常生活に及ぼす影響 (3)不眠のある対象・家族への看護	講義・演習	
2	2.不安緊張状態・パニックの対象の看護 (講師:中島 由美子) (1)不安緊張状態・パニックの要因 (2)不安緊張状態・パニックが日常生活に及ぼす影響 (3)不安緊張状態のある対象・家族への看護	講義・演習	
3	3.妄想・幻覚状態の対象の看護 (講師:石井 俊介) (1)妄想・幻覚状態の要因 (2)妄想・幻覚状態が日常生活に及ぼす影響 (3)妄想・幻覚状態にある対象・家族への看護	講義・演習	
4	4.抑うつ状態の対象の看護 (講師:石井 俊介) (1)抑うつ状態の要因 (2)抑うつ状態が日常生活に及ぼす影響 (3)抑うつ状態にある対象・家族への看護	講義・演習	
5	5.躁状態の対象の看護 (講師:中島 由美子) (1)躁状態の要因 (2)躁状態が日常生活に及ぼす影響 (3)躁状態にある対象・家族への看護	講義・演習	
6	6.躁状態の対象の看護 (講師:中島 由美子) (1)躁状態の要因 (2)躁状態が日常生活に及ぼす影響 (3)躁状態にある対象・家族への看護	講義・演習	
7	7.身体表現性障害の対象の看護 (講師:中島 由美子) (1)身体表現性障害の要因 (2)身体表現性障害が日常生活に及ぼす影響 (3)身体表現性障害のある対象・家族への看護	講義・演習	
8	8.摂食障害の対象の看護 (講師:中島 由美子) (1)摂食障害の要因 (2)摂食障害が日常生活に及ぼす影響 (3)摂食障害のある対象・家族への看護	講義・演習	

領 域	専門分野Ⅱ (精神看護学)	開講時期	2 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	精神看護方法論Ⅱ (精神疾患・症状への看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 22 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	中島由美子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 26 年) 石井 俊介 (別府医療センター・副看護師長・12 年)		
回	授業内容	授業方法	
9	9. 物質関連障害 (アルコール依存、薬物依存) の対象の看護 (講師: 石井 俊介) (1) 物質関連障害の要因 (2) 物質関連障害が日常生活に及ぼす影響 (3) 物質関連障害のある対象・家族への看護	講義・演習	
10	10. パーソナリティ障害の対象の看護 (講師: 中島 由美子) (1) パーソナリティ障害の要因 (2) パーソナリティ障害が日常生活に及ぼす影響 (3) パーソナリティ障害のある対象・家族への看護	講義・演習	
11	11. 自傷・自殺企図など緊急な状態にある対象の看護 (講師: 石井 俊介) (1) 自傷・自殺企図の要因 (2) 自傷・自殺企図が生命・日常生活に及ぼす影響 (3) 自傷・自殺企図の対象・家族への看護 (胃洗浄を含む)	講義・演習	
授業の進め方 各症状の背景にある身体的・精神的・社会的要因を理解し、各症状が対象の生活に及ぼす影響を理解する。その上で対象と家族に必要な看護を考えられるようにする。また、精神医療の急性期治療を理解し必要な看護を教授する。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院) 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図 (中央法規) 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門分野Ⅱ（精神看護学）	開講時期	2年後期
科 目 名	精神看護方法論Ⅲ （看護過程の展開）	単 位 数 （時間数）	1単位（15時間）
講 師 <small>（所属・職位等・実務経験）</small>	中島 由美子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師26年）		

<科目目標>

精神障害を有する対象との関わりをロールプレイして、援助的人間関係構築のための基本的な技術を理解する。また関わりの場面をプロセスレコードに記述し、看護の対象者や自己の気持ちを振り返る技術を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1～2	1. 精神疾患を有する事例患者の看護過程 ※事例 68歳 女性 統合失調症 1) 行動のアセスメント (1) 自己概念様式 i. 自我の機能 ii. 防衛機制 (2) 役割機能様式 (3) 相互依存様式 i. 家族のストレスとサポートシステム (4) 生理的様式	講義 演習
3	2) 全体像の理解 (1) 関連図	講義 演習
4	3) 刺激のアセスメント 4) 看護問題の明確化	講義 演習
5	5) 看護計画 (1) ペプロウの対人的プロセス	講義 演習
6	6) 事例患者の看護計画の実施 (1) フィジカルイグザミネーション インタビュー (2) 患者-看護師関係の展開 (3) 看護カウンセリング (4) エンパワメント (5) 共感的理解 (6) 自己一致 (7) フィードバック	講義 演習（ロールプレイ）
7	7) ロールプレイした場面をプロセスレコードに記載 (1) 観察法 (2) 記録 (3) ペプロウの対人的プロセス (4) 患者の気持ち (5) 援助者の気持ち (6) 患者-看護師関係	講義 演習
8	8) 事例患者の看護の評価	講義

領 域	専門分野Ⅱ（精神看護学）	開講時期	2年後期
科 目 名	精神看護方法論Ⅲ （看護過程の展開）	単 位 数 （時間数）	1 単位（15 時間）
講 師 <small>（所属・職位等・実務経験）</small>	中島 由美子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 26 年）		
<p>授業の進め方</p> <p>事前課題、講義、校内演習、ロールプレイ、を通して、下記を指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インタビュー技術についてロールプレイと、安全を考慮した環境調整について校内演習をする。 2. 援助的人間関係を形成するための理論と演習については、ペプロウの理論を活用する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) グループワークなどで検討し、ロールプレイをする。ロールプレイによって、看護計画を再検討する。 2) ロールプレイの場면을プロセスレコードの様式に記述して、自分の気持ちや患者の気持ちを振り返る方法を教授する。 3. グループワーク、ロールプレイを通して援助的人間関係を形成することについての意見を述べ、グループの意見を聞いて再考することを学習する。 4. 発表を通して、他のグループの意見を聞き、援助的人間関係を形成することについて再考し、精神看護学実習に向けての自己の課題を考える機会にする。 			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [1] 精神看護の基礎(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 [2] 精神看護の展開(医学書院) 3. NANDA - I 看護診断 定義と分類 (2018-2020) (医学書院) 4. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図(中央法規) 			
<p>評価方法</p> <p>レポート</p> <p>授業への取り組み、授業での発言</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（精神看護学）	開講時期	2年後期 3年前期・後期
科目名 （单元名）	精神看護学実習	単位数 （時間数）	2単位（90時間）
講 師 （所属・職位等・実務経験）	中島 由美子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・26年）		
<p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の発達課題と精神症状や状態が日常生活および社会生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 対象者が治療を継続することで及ぼす日常生活および社会生活への影響を理解できる。 3. 対象者の治療方針および看護方針をふまえて必要な看護を計画できる。 4. 対象者の治療方針、看護方針を踏まえて、個別性に応じた方法で看護を実践できる。 5. 対象者に必要な社会支援や継続看護について理解できる。 6. 対象者と援助的人間関係を形成することができる。 7. 対象者の人権・意思決定を尊重し、対象者の権利を擁護した行動をとることができる。 8. 保健医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 <p><学習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者をロイの看護適応モデルを用いた看護の思考過程 2. 受け持ち対象者がいま感じていること、思っていること、考えていることを対象者の言語的および非言語的情報から収集していく看護技術の実際 3. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者への日常生活援助の実際 4. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者への診療の補助技術の実際 5. 対象者の社会資源の活用状況と社会復帰に向けた支援 6. 対象者への看護実践を通して、学生自身の感情や考えをプロセスレコードによって客観的に振り返る方法。 7. 援助的人間関係を形成するための方法と自己の課題の明確化 8. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者の基本的人権を擁護・意思決定を尊重した態度について 9. 専門職業人として望ましい態度 <p>※詳細は精神看護学実習要項に準ずる。</p> <p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開(医学書院) 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図(中央法規) 4. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研) 5. NANDA-I 看護診断 定義と分類(2018-2020)(医学書院) 6. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院) 7. 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 8. 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院) 9. 看護技術がみえる Vol 1 基礎看護技術(メディックメディア) 10. 看護技術がみえる Vol 2 基礎看護技術(メディックメディア) 他 既習のテキストを活用する。 <p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（精神看護学）	開講時期	2年後期 3年前期・後期
科 目 名 (単元名)	精神看護学実習	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中島 由美子（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・26年）		
<p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の発達課題と精神症状や状態が日常生活および社会生活に及ぼす影響について理解できる。 2. 対象者が治療を継続することで及ぼす日常生活および社会生活への影響を理解できる。 3. 対象者の治療方針および看護方針をふまえて必要な看護を計画できる。 4. 対象者の治療方針、看護方針を踏まえて、個別性に応じた方法で看護を実践できる。 5. 対象者に必要な社会支援や継続看護について理解できる。 6. 対象者と援助的人間関係を形成することができる。 7. 対象者の人権・意思決定を尊重し、対象者の権利を擁護した行動をとることができる。 8. 保健医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 <p><学習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者をロイの看護適応モデルを用いた看護の思考過程 2. 受け持ち対象者がいま感じていること、思っていること、考えていることを対象者の言語的および非言語的情報から収集していく看護技術の実際 3. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者への日常生活援助の実際 4. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者への診療の補助技術の実際 5. 対象者の社会資源の活用状況と社会復帰に向けた支援 6. 対象者への看護実践を通して、学生自身の感情や考えをプロセスレコードによって客観的に振り返る方法。 7. 援助的人間関係を形成するための方法と自己の課題の明確化 8. こころの健康障がいおよび精神疾患を有する対象者の基本的人権を擁護・意思決定を尊重した態度について 9. 専門職業人として望ましい態度 <p>※詳細は精神看護学実習要項に準ずる。</p> <p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開(医学書院) 3. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図(中央法規) 4. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研) 5. NANDA-I 看護診断 定義と分類(2018-2020)(医学書院) 6. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院) 7. 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 8. 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院) 9. 看護技術がみえる Vol 1 基礎看護技術(メディックメディア) 10. 看護技術がみえる Vol 2 基礎看護技術(メディックメディア) <p>他 既習のテキストを活用する。</p> <p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			